



千葉県立安房拓心高等学校サトウキビ組合

南房総から新たな風、

地域連携活動によるサトウキビ栽培・有効活用



本校では栽培の実証実験、生育調査、収穫後の搾汁液の有効活用を目的として活動してきました。令和4～5年度は、サトウキビ栽培の実証実験を行い、ペナシユール房総から提供いただいた苗を栽培し、安定した生育経過を得ました。そのため、11月にはゾウの飼料として市原ぞうの国へ提供、収穫を実施しサトウキビは搾汁液にし糖蜜へ加工しました。残ったサトウキビはペナシユール房総へ提供しラム酒へ加工してもらいました。サトウキビは最初の定植から約5年間栽培・収穫ができるため継続して栽培を行い、糖蜜は本校の加工部門で活用され黒糖パンとして製造されました。また、食味調査も行い商品化の検討を行いました。今年度は、過去の実績から新たに南房総市や千葉大学の協力もいただけることとなり、栽培面積を増やし、サトウキビの栽培・有効活用方法をより検討していくことになりました。今までの栽培経過より多くの肥料を必要とすること、沖縄や九州では最初に多くの肥料を施肥することを参考に、過去の栽培と比較し多くの肥料を元肥として施肥しました。また、今回苗として利用する栽培中のサトウキビを刈り取り、苗作りにも挑戦しました。定植準備として圃場に溝を掘り条間を広げ前年度までよりも除草管理がしやすいように工夫しました。定植は2・3年園芸系列地域連携事業としてペナシユール房総、南房総市協力のもと行いました。定植方法は苗をつなげて真っ直ぐに置き、覆土しました。継続栽培および新しく定植したサトウキビは生育調査を1週間間隔で行い、今後も収穫まで行う予定です。また、10月より南房総市初の夏植え栽培にも挑戦し、サトウキビの収穫時期の拡大、栽培の普及をめざし活動を継続しています。また、今年度の収穫物はサトウキビ酢に加工し、商品開発にも力を入れていきます。